

NEWS LETTER KUMAMOTO

2015. Autumn Vol. 107

■発行：一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783

e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/



《特集：「熊本市における多文化共生施策の現状と課題」》

はじめに

多文化共生とは「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共にいきっていくこと」と総務省が作成した「多文化共生の推進に関する研究会報告書(平成18年3月)」で定義されています。在住外国人も地域の構成員として捉え、住民同士が、差別し合うことなく国籍や民族、文化、言葉などの「ちがいを認め合い、支えあう関係を持って暮らしていくことをいいます。

しかしながら、国内では未だに外国人からの移住者や労働者にとっては様々な弊害があり多くの問題を抱えているのが現状です。

では、熊本県では、熊本市ではどうでしょうか。熊本市においても、2010年に策定した熊本市国際化指針「世界に開かれた活力ある都市をめざして」に多文化共生施策として掲げていますが、現状はどうでしょう。今回は、熊本県内、九州内の外国人が抱える問題について、長きにわたり携わってこられた「コムスタカー外国人と共に生きる会」の中島 眞一郎氏の団体の活動紹介とともに、「熊本における多文化共生施策の現状と課題」についてお話をいただきました。



《コムスタカー 外国人と共に生きる会の紹介》

コムスタカー外国人と共に生きる会は、今年結成30周年を迎えました。これまで熊本県内や九州内の在住外国人の無料人権相談や自立支援の活動を続けてきました。外国からの移住者や外国人労働者問題の講演会やシンポジウムや映画上映会などの啓発活動、行政(熊本県や熊本市)へ「外国籍住民や帰国者のための施策の提言」を提出するなど、外国人と共に生きる地域社会の実現のための施策の提案を行ってきています。長年、このような活動を行ってきたNGO(民間非政府組織)の視点から、熊本市の多文化共生施策の現状と課題について述べます。

《日本と諸外国・地域の取り組みの比較》

移民受入れ国であるアメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアや欧州諸国は、移民をその社会に適応できるようにするため社会統合政策として、移民を保護する施策が実施されています。

韓国は、2007年 在韓外国人処遇基本法を制定し、広域自治体など地方自治体は、同条例を制定し、2010年には、韓国人と国際結婚した家族を対象に多文化家族支援法や同条例が制定され、法律や条例で在韓外国人の基本的な人権を保障し、在韓外国人や多文化家族を対象とした様々な具体的な支援施策が実施されています。また、台湾でも、2007年から、移民省が設置され、新移民(移住労働者・結

《特集》

熊本における多文化共生施策の
現状とこれからの課題・・・P1～P3

世界へ羽ばたく・・・P4
・日本語教師奮闘記

元学生ボランティア 上野 綾子さん
ちょっといわせてはいよ!・・・P5
・熊本大学大学院先端機構(HIGOプログラム)特任助教
ネパール出身 Hari Devkota さん

目次

Contents

未来のために・・・P6
・水害と地域力

事業団多文化共生アドバイザー 羽賀 友信さん

世界を知る～It know the world～・・・P7
・「ブラジル・サンパウロの日系社会」

JICA 日系社会シニアボランティア OG 大塚 雄子さん

ちょっと日本語/きふプロ

平成27年度賛助会員・・・P8

婚移民)を対象とした多言語サービスや行政サービスを提供する政策が実施されています。しかし、日本には、外国人を対象とした法律には、外国人を管理排除するための「入管特例法」「出入国管理及難民認定法」の法律しかなく、外国人の権利を保障したり、外国人への差別を禁止したり、外国人を保護する法律が存在しません。現在の日本の多文化共生施策は、日本の省庁の一つである総務省が、地域住民施策の一つとして多文化共生を掲げているにすぎないという限界があります。このように日本の多文化共生施策は、移民受け入れ国だけでなく、韓国や台湾等と比べても相当遅れています。

〈熊本市の多文化共生施策の現状と課題〉

熊本市は、総務省の多文化共生プランの具体化を図っていくために、2010年3月策定の熊本市国際化指針「世界に開かれた活力ある都市を目指して」において、従来の国際交流や国際協力の推進に加えて、「外国人にも暮らしやすい多文化共生のまちをつくる」を方針として掲げました。

熊本市に暮らす在留外国人は、4566人(2014年12月末現在)です。15年前の1999年12月末が2912人でしたから、15年で約1.5倍増加し、その数は増加傾向にあります。それらの人々を、地域社会の構成員とみなして「外国籍市民」という概念でとらえ、行政の施策の対象とすることは、とても大切なことです。

熊本市国際化指針「世界に開かれた活力ある都市を目指して」の中で、多文化共生施策としては以下の3つの取り組み目標を掲げています。

① 外国籍市民への支援について

熊本市には、上記指針作成時の担当課として存在した文化国際課は存在せず、2011年度からはシティプロモーション課国際室に引き継がれています。しかし、その主な活動は、国際交流や外国人観光客を対象とした誘致促進活動やフェアトレード都市の取組み等となっており、熊本市の多文化共生の施策は、留学生支援を除いて熊本市国際交流振興事業団にほぼゆだねられています。市役所や各区役所に、外国籍市民を対象とした外国籍市民課は存在せず、外国籍市民専用の相談窓口もありませんし、行政情報の多言語化や、多文化共生施策を具体化する担当職員も少なく、予算もきわめて不十分です。

国際交流会館を拠点とした熊本市国際交流振興事業団は、外国籍市民への相談活動や日本語教室、日本語指導者の養成や医療通訳者の養成と派遣、防災対策など全国的にも積極的な取り組みをなされており、それ自体は高く評価できます。しかし、国際交流会館を活用・利用している外国籍市民が、比較的問題の少ない人が中心となっており、問題を抱え行

政の支援を必要としている外国籍市民に十分には手が届いていない現状があります。

※当事業団は熊本市によって設立された外郭団体で、当該国際化指針に沿って事業を実施しています。今後は情報弱者となり社会から置き去りにされる外国籍住民がいらないような多文化共生の取り組みを検討していきたいと考えます。

② 市民の異文化理解の推進

市民への外国人との交流や学習の機会提供や教育の推進が具体的な施策として掲げられています。しかしながら、それらは、交流や啓発や支援活動のレベルにとどまり、行政が主体的に行う外国にルーツのある子どもへの教育援助や施策は具体化されておらず、外国人へのヘイトスピーチや住居差別などを規制する条例の制定等、地域社会に具体的に存在する外国人への差別や偏見、いじめなどをなくす具体的な取り組みになっていません。

※外国にルーツのある子どもへの教育について、熊本市教育委員会が義務教育課程の外国籍や帰国児童・生徒への日本語支援を、黒髪小学校・桜山中学校をセンター校に生徒児童の通級指導と在籍校へ指導者派遣を実施しています。また、当事業団では、関係団体と連携・協力して高校等進路ガイダンスを実施したり、生徒・児童や保護者からの相談を受けたり、取り組んでいます。熊本市の人権総室では外国人の人権についての市民啓発活動を実施しています。さらに、全ての人が安心して快適に暮らせる街づくりを目指し、熊本市と当事業団が連携を図り、具体的な人権への取り組みを行います。

③ 外国人市民参画のまちづくり

これらは、地域社会の各種団体への参加を促す情報提供や、その機会の提供を行うというレベルで、外国籍市民が、熊本市の行政へ参画する具体的な制度や仕組みは存在しません。熊本市は、全国の政令指定都市で唯一(一般職)職員採用試験において国籍条項を設けていましたが、2015年度から消防職を除き一般職の職員採用試験から国籍条項を原則的に廃止し、外国籍住民にもその門戸をようやく開きました。外国人市民参画のためには、熊本市自ら、職員の外国籍市民の採用を積極的に進め、熊本市の行政への外国人市民の声を反映できるように、外国籍市民代表者会議等を設け、その参画を積極的にはかる制度の設定や運用を行う必要があります。

※当事業団では、防災対応を目的に、外国籍市民の各コミュニティのキーパーソン会議を開催し、情報交換や重要情報の提供を行なっています。討議の結果を熊本市の多文化共生施策に反映するまでには到っていません。

外国籍市民の方々の視点は、今後の熊本市を誰にとっても暮らしやすい街にしていくために重要となり、熊本市の施策検討では、これまでも外国籍市民からのご意見をいただけてきました。

さらに、今後の外国籍市民代表者会議の開催については、今後の検討すべきこととして、ご指摘いただきましたことに感謝します。

《まとめ》

以上のように、熊本市の多文化共生の施策は、現状では、熊本市としての主体的な取り組みがほとんどなく、熊本市国際交流振興事業団へほぼ委託されて行われており、実態として、従来の国際交流や外国人観光客の誘致のための施策の延長の域を超えていません。熊本市は、定住する外国人市民を対象とした多文化共生施策を担当する課を設け、予算と人員を割り当てて、先進的な諸外国の政策や国内の他自治体の施策に学びながら積極的具体的な多文化共生施策を展開していくことが求められています。

※多文化共生に加え、熊本市の海外への発信など国際化施策は、熊本市を今後益々活性化、発展させていくための重要な視点となります。熊本市が施策検討・策定、目標設定し、当事業団が実施機関として、より緊密な連携を図りながら、外国籍市民の方々を含め広く市民の皆さんのご意見、アイデアをいただきながら、「世界に開かれた活力ある熊本市を目指して」、熊本市の国際化を推進してまいります。今後ともご指導、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

多文化共生オフィスのご案内

国際交流会館2階交流ラウンジの多文化共生オフィスは、言語や文化の違いを越え（お互いに尊重し、受入ながら）、豊かな多文化共生の社会づくりを推進するため、ライフサポートをはじめ色んな情報を集約した“ワンストップ”オフィスです。日本語の学習支援や英語、中国語、韓国語、ドイツ語、タガログ語、スペイン語など多言語での相談に加え、出入国在留資格に関する相談や外国人のための無料法律相談も実施しています。困ったこと、わからないことがあればお気軽にお問い合わせください。

★多言語相談★

多言語による生活全般にわたる相談窓口の開設、法律及び出入国に関する相談、外国籍児童の教育相談を受付、アドバイスを行います。※相談員の都合により、相談日の変更・キャンセルとなる場合がございますので予めご了承ください。

言語	相談日時
英語、日本語	随時 9:00-18:00
中国語	火曜日 13:00-17:00
ドイツ語	水曜日 13:00-17:00
韓国語	木曜日 13:00-17:00
スペイン語	第1金曜 13:00-17:00
タガログ語	第2水曜 13:00-17:00
中国人のための生活教育相談	水曜、金曜 13:00-18:00
在留資格に関する出入国管理相談	第1水曜 13:00-15:00
法律相談	第3土曜 14:00-16:00

★日本語支援★

《くらしのにほんごくらぶ》

日本語学習に加え、生活習慣を学ぶ機会や季節イベントなどを取り入れたボランティア主体の日本語支援を行なっています。生活日本語支援ボランティアも随時募集。

- ◆火曜日 10:00~12:00
- ◆水曜日 10:00~12:00、14:00~16:00、18:30~20:00
- ◆日曜日 10:00~12:00、14:00~16:00

《地域日本語教室》

子育てや交通機関の状況等で国際交流会館への来館が困難な外国人を対象に、近隣在住の外国人市民のために開催するボランティアによる教室。

- ◆健康教室：毎週火曜日 10:00~11:30
- ◆武蔵ヶ丘教室：毎週火曜日 10:00~11:30

《初級日本語集中講座》

日本語を正式に学んだことのない在住外国人や来日したばかりの外国人を対象にした日本語の基礎文型や文法を36時間で学ぶ集中講座を開催しています。

★外国籍の子ども教育支援★

国際結婚や呼び寄せによる外国にルーツを持つ子どもたちの増加に伴い、異なる言語・文化・背景を持つ彼らが自分らしく生活が出来るように、支援団体（熊本外国ルーツの子どもたち支援連絡協議会、子ども支援ネット）と協力連携しサポート。

- ◆中国帰国・外国人生徒と保護者のための進路ガイダンスや、こども支援ネットと連携し、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語習得、教科学習支援を行う「おるがったステーション」の開催等。

★多文化共生ソーシャルワーク活動(地域サポート事業)★

熊本市の保健センターや児童福祉課などの要請に応じて、外国人家庭を対象にした「こんにちは赤ちゃん事業」や館外での外国人高齢者の生活保護、介護等における言語・文化通訳等、問題の解決までをサポートするソーシャルワーク活動を行うとともに、外国人市民が地域に溶け込めるように地域のイベントなどに案内するなどの活動を行なっています。

★市政だよりの多言語化★

熊本市の行政情報“市政だより”を多言語化(英語・中国語・韓国語)し、ホームページ上で紹介しています。

★外国人のための防災ラジオ放送★

熊本シティエフエムにおいて、多言語(英語、中国語、韓国語、タガログ語)による防災情報を定期的に放送しています。

★あんしん・あんぜん 災害・生活情報eメールマガジン★

(防災メルマガ)
外国人向け多言語情報メール無料配信サービス。
熊本市からのお知らせや生活、健康、イベントなど役立つ情報を月1回程度日本語、英語、中国語で配信しています。
また、災害が起きたときは、災害情報、非難情報を配信します。

- ◆このような情報を配信しています。

・行政からのお知らせ

市政住宅(入居情報)、健康福祉(予防接種、健康診断)、教育などについてのお知らせ。

・KIFからのお知らせ

日本語教室や相談窓口についてのお知らせ。
国際交流会館やその他で行う当事業団が主催・共催するイベント情報。

・防災情報

日頃からの災害への備えについて。また、緊急時の速報や避難所等の情報。

多文化共生オフィスへのお問い合わせは、直接来館、もしくは電話、eメールで受け付けています。

利用時間：9時~20時

《第2、第4月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は火曜日が休み)、並びに12月29日~1月3日は休館日の為休み》

電話(直通)：096-359-4995 e-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp

世界へ羽ばたく

当事業団での学生ボランティアやインターン活動、また、国際ボランティアワークキャンプ in ASO、グローバルワークキャンプ等に参加した学生の皆さんが世界各国へ留学、就職等をしています。このページでは、その海外で生活している彼らの、感じた事・体験した事を現地レポートとして掲載していきます。



(前列左から3番目が筆者)

「日本語教師奮闘記」

エリート日本語学校 日本語教師 上野 綾子さん
(ベトナム・ホーチミン市在住)

はじめまして。私は上野綾子と申します。大学生の頃学生ボランティアとして国際交流会館で活動していました。その活動を通して、私は多くの人に出会いました。その出会いは私にとって宝で、心から国際交流会館には感謝しています。

私は今ベトナムのホーチミン市で日本語教師として働いています。なぜ私がベトナムへ来たのか、それは偶然ベトナムで働くチャンスが巡ってきたからです。日本語教師としての経験を積みたい、教授スキルをもっと高めたい、そんな思いからベトナムへ来ました。特にベトナムへ行きたいという気持ちはあったわけではなく、今でもベトナムにいるのが不思議なくらいです。まだこちらへ来て一か月半ほどしか経っていないので何も分からない状況の中、日々戦っています。

私はベトナムへ来る前に、2年間台湾で日本語教師として経験を積みました。台湾へ行く際も台湾へ行きたいという気持ちより、日本語教師としての経験を積みたいという気持ちから行きました。最初は全く中国語が分からず、しかも、台湾の中でも田舎に住んでいたため、そこは台湾語が主に使われる地域でした。そのため、とても苦労しました。買い物など簡単に自分が「できていた」ことが「できなくなる」ことへの苛立ち、情けなさを感じました。一度本当に日本へ帰ろうと思ったことがあり、泣きながら母に連絡をしました。すると、母は「泣きながら連絡をしてきても、どうしてもないんだから、自分で決めたことなら最後までやりなさい」と言って電話を切りました。母の言葉はとても心に響き、それで立ち直り、2年間台湾に住むことができました。最後には日本へ帰りたくない気持ちから涙しました。台湾で過ごした2年間は一生忘れないと思います。

台湾から帰るとき、自分の出した答えがこれで良かったのかと悩みました。しかし、ベトナムへ行くと決めたのは自分自身だし、自分の決めた選択には意味があって、間違いではないはずだと思うようになりました。実際、いまは台湾の頃とは目的も年代も全く異なる学習者と接しています。そのため、日々悩み苦しんでいますが、素晴らしい経験になっています。学習者は私を通して日本を見ているんだ、日本人の代表なんだ、そんな気持ちを持って教壇に立っています。今は成長した私を学習者に見せるのが恩返しだと思っています。

人は誰でも新たな挑戦という扉を開く時不安でしょうがないと思います。しかし、その扉を開いた時、そこには想像もしていなかったような世界が広がっています。決めるのは自分次第です。私は「しないで」後悔するより「して」後悔をしたいです。自分にはまだまだ可能性があると思っています。願えばそこに道は広がると信じて今の自分を楽しみたいと思います。

FairTrade Station link café

新メニューが加わりました



根菜カレー

単品 750円

《飲み物セット価格》

1,050円

(コーヒー(Hot or Ice)、紅茶(Hot or Ice)、県産みかんジュース、県産ジンジャースカッシュのどれか1つとの組み合わせになります)

うぶやま NYチーズケーキ

単品 330円

《飲み物セット価格》

630円

(コーヒー(Hot or Ice)、紅茶(Hot or Ice)、県産みかんジュース、県産ジンジャースカッシュのどれか1つとの組み合わせになります)



うぶやま アイスクリーム

単品 310円

イベント インフォメーション

「フェアトレード バングラディッシュウィークエンド」 11月28日(土)

①バングラディッシュ留学生と語らう(セミナー&ランチ交流)

時間：午前10時～

会場：国際交流会館 4階第3会議室 参加費：500円

②フェアトレードは村や女性をどう変えてきたのか

～バングラディッシュのある村を事例に考える～

時間：午後2時～

会場：国際交流会館 4階第3会議室 入場料：無料

11月29日(日)

③バングラディッシュ伝統刺繍(ノクシカタ)ワークショップ

時間：午前10時半～

会場：国際交流会館 1階 link カフェ 参加費 500円

④メヘディアート体験

時間：午後1時半～3時

会場：国際交流会館 1階 link カフェ 参加費 300円

《各イベントについての申込み・問合せ》

熊本市国際交流振興事業団 TEL：096-359-2121

フェアトレードと地産品 こだわりの店 link café(リンクカフェ)

TEL：096-359-4992

E-mail：linkcafe@kumamoto-if.or.jp

「外国人として熊本の生活や日本について」

熊本大学大学院先端機構（HIGO プログラム）特任助教
ネパール出身 Hari Devkota

こんにちは。ナマステ。

ネパール出身の Hari Devkota（ハリ・デブコタ）です。

私は2007年10月に国費留学生として、熊本大学大学院薬学教育部に入学しました。今年で9年目になります。長いように思えますが、昨日のこのように感じています。現在、熊本大学大学院先端機構（HIGOプログラム）で特任助教として働いています。

留学してすぐは日本語が全くわからず、いろいろ困りました。熊本大学の先生方や友達、熊本市国際交流振興事業団（K I F）の先生方に日本語を教えてくださいいただきました。半年ほど経つとコミュニケーションが取れるようになってきて、日本での生活が楽しくなりました。

現在、熊本生まれの息子2人（写真1）と妻の4人で楽しく生活しています。熊本に来てから驚いたことがたくさんあります。1つ目は熊本市の医療の素晴らしさです。出産や検査のときにお世話になったのですが、医療施設や医療制度などが整っており、とても助かりました。2つ目は熊本の治安の良さです。子どもたちを育てていくのに安全に生活できることを嬉しく思います。私が研究などで夜遅くなって帰るときも安心です。また、熊本に住んでいる方々がとても優しくて親切なので、ネパール以外で住む場所を選ぶなら、日本を選び、その中でも熊本を選ぶと思います。



（写真1）
《2人の息子達》
右側：アユス
左側：アビス

私が生まれたネパールの村は、ヒマラヤ山脈がキレイに見えるところにあります（写真2）。熊本のよ
うな海や火山はありませんでしたので、家族と天草
や阿蘇などに行くことが楽しみです（写真3）。熊本
は熊本城や水前寺公園、きれいな景色や美味しいも
のがたくさんあって良い所だと思います。



（写真2）
《ネパール西部のポカラ市からの景色》

熊本は9年前に比べて、外国の方も住みやすくなりました。ただ、言葉の壁がまだあるように感じる
ので、ここが改善されるとさらに外国の方にとっ
ても親しみやすくなると思います。お互いに、英語、
日本語等をはじめとした各国の言語を学び、理解し、
そしてその背景にあるそれぞれの異なる民族・文
化・歴史を知ること、によりよい関係を作れると思
います。

私が日本に滞在しているときに東日本大震災もあり、地震が大変なものであることがわかりました。また、今年の4月25日にネパールでも大きな地震があった際に、熊本の人達からたくさんの寄付や援助をしていただき、心より感謝申し上げます。

これから先もしばらく熊本に滞在する予定なので、機会がありましたらよろしくお願いします。ネパールも良いところなので一度訪れていただけると幸いです。



（写真3）
《俵山での家族写真》

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。



筆者：羽賀 友信さん

- ・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
- ・新潟 NGO ネットワーク顧問
- ・JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
- ・長岡市教育委員
- ・JICA 専門家
- ※当事業団多文化共生アドバイザー

水害と地域力

◆鬼怒川の決壊◆

9月10日、台風18号が栃木、茨城地方に豪雨をもたらし、広範に及ぶ洪水被害を引き起こしました。原因の一つは、次々と積乱雲が北上に連なる線状降水帯が鬼怒川の流域に長居し、集中豪雨をもたらしたことです。これにより、堤防が数カ所で決壊し、上流から下流にかけて同時に大きな災害を引き起こされたことにより、避難活動は困難を極め、孤立する被災者が多々生じました。

◆治水の歴史◆

水害に見舞われた常総市を中心とした地域は、鬼怒川と小貝川に挟まれており、古代から水害に見舞われてきた地域です。これらの川は、かつて利根川の手前で合流し、氾濫を繰り返していましたが、徳川家康が60年をかけて利根川の流れを江戸湾から銚子へと付け替えたのに伴い、それぞれに利根川への出口を持たせ、水害を避ける工事をしました。後年、荒川放水路も東京湾に向けて造られました。しかし、今回はその能力を遥かに超えた災害が起きてしまいました。

◆市の危機管理◆

常総市の人口は、約65,000人、外国人人口は4,000人で人口の6%です。その約半分はブラジル人であり、多くは日給の労働者です。常総市役所は鬼怒川が決壊した場合、1～2m水没するとハザードマップに記載されていましたが、そこが災害対策本部に指定され、同時に避難所にもなっていました。実際、水没し電源が失われ、災害対策本部の機能は失われました。また避難指示も後手後手に回り、流域被害にもかかわらず流域全体ではなく、特定の地域のみに出され、多くの命が失われてしまいました。今後の危機管理体制が見直される必要が大いにあります。

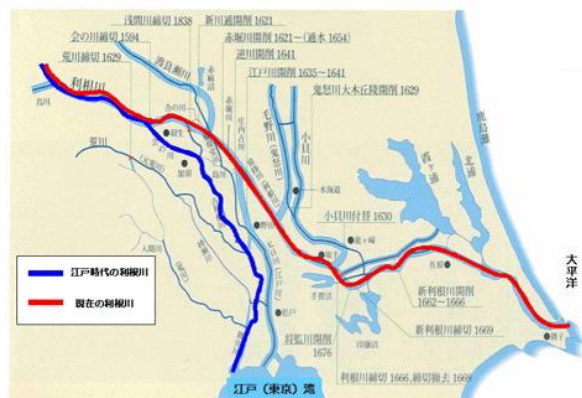
◆市民力と地域力◆

水害後、日頃からブラジル人支援を行ってきたN

PO法人「茨城NPOセンター・コモンズ」が中心となって、水害の一番ひどい水海道地区で「たすけあいセンターJuntos」を立ち上げました。Juntosとは「一緒」を意味するポルトガル語です。ここでは①片付け資機材の貸し出し、②支援物資の受け付け・配布、③「助けて」「困った」ニーズの受け付け、④お役立ち情報やボランティア情報の提供、⑤生活再建への相談、⑥常設の地域交流スペースなどの支援を行っています。私の住む長岡からも「チーム中越」の経験値の高い2人のメンバーが支援に入り、一人は水害発生から一月後の今も頑張っています。

外国人被災者にとって、国の支援金だけでは数百万円という再建費用を賄いきれないのが実態です。今後、生活再建に際しては、個々のケースに対応した相談アドバイスが必要であり、今までのようにITを活用して遠隔から翻訳のサポートをするだけでは足りず、対面でポルトガル語を使える相談窓口が必要になります。全国のネットワークと連携して、地域の人々が自力で立ち上がるために長期的な支援が必要となります。

Juntos 代表の横田さんは、災害を機に格差が広がったり、まちで暮らす外国人と日本人の溝が深まることを懸念しています。一方この災害を一つの改革のチャンスととらえ前向きに取り組んでいきたいと話しています。我々外部の人間もボランティア支援や寄付金支援を継続的に進める責任があります。



《国土交通省ホームページより》



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「ブラジル・サンパウロの日系社会」

JICA 日系社会シニアボランティア OG 大塚 雄子さん
(平成 24 年 7 月～平成 27 年 7 月 ブラジル派遣 職種：栄養士)

地球の反対側に位置するブラジルには現在約 150 万人の日系人が暮らしていると言われています。

赴任してサンパウロに着くと、日系社会最大の催し「日本祭り」の最中でした。その規模の大きさと、ここに“日本”があることにびっくりしました。出身ルーツの都道府県ごとに工夫を凝らした郷土料理が実演販売され、様々な肌の色や髪型のブラジル人が、列をなしておいしそうに食べていました。熊本県のブースでは“辛子レンコン”と“おはぎ”が売られており、早くも故郷の事を思い出しました。この祭りは毎年3日間で15～18万人の人出があるそうです。

配属先の社会福祉法人「こどものその」は、今年で創立 57 年です。日系の知的障がい者のために作られた施設ですが、園生達の高齢化も進み、平均年齢は 49.5 歳です。60 歳以上も 18% となり、高血圧や糖尿病など生活習慣病も出ていました。職員はじめ多くの方々の協力で、野菜豊富なバランスの良い食事と、毎朝のラジオ体操やウォーキング、足の筋力体操などを行うことで、園生達には生活習慣病の改善が見られました。



《同僚の調理スタッフ達》
(筆者：前列中央)

施設では、食事の前後には手を合わせて「いただきます」「ごちそう様」を全員で唱えます。お雛様、花祭り、こいのぼり、運動会といった日本の文化行事と、フェスタ・ジュニーナなどブラジル行事が混合で行われています。8 割が日系の園生達は、ポル

トガル語でブラジルの歌を歌い、カラオケ大会では日本語で演歌を歌います。

ブラジルでは定番のフェイジョン（豆を柔らかく煮たものにニンニクと玉ねぎを炒めて入れた塩味のスープ）をご飯にかけて食べますが、寿司や焼きそばも地元の職員に人気です。

リベルダーヂという東洋街では、日本食のお店も多く、ラーメン屋の前ではいつも行列ができています。日本食の食料品店では、納豆、豆腐、インスタントラーメン、調味料などなんでもそろっていて、日本米、大根、ゴボウ、柿、デコポンも店先に並んでいます。

柿はブラジルでも caqui と発音しますが、施設のブラジル人調理スタッフさんは caqui はブラジルの果物と思っていたほどです。文化だけでなく、南米の野菜や果物までも違和感なく同化している様が面白く感じられました。

近年は、日系社会でも肉食、油、砂糖の消費が多いせいか生活習慣病の方も多いそうです。日本文化福祉協会から依頼があり「高齢者のつどい」で食事の話をする機会もありました。こういう機会はあまりないらしく熱心に聴いていただき、たくさんの質問が出ました。

帰国して距離は遠くなりましたが今でもすぐそこに日系社会があると感じます。これからも両国が益々近い存在になることを願っています。



《サッカー（ワールドカップ）の応援》
(筆者：前列右側)

ちょっと Japanese Tip 日本語

NPO 法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

「た」は過去？

外国語としての日本語文法のうち、初級教科書の最重要文法項目に「て形」があります。たとえば「～てください」や「～ています」などです。そしてこの「て形」は「食べて(食べた)」や「書いて(書いた)」などのように「た形」と同じです。「た」というと過去形と思いがちですが、外国語としての日本語教育では、決して「た」の形を「過去形」などとはいいません。なぜなら、「た形」は「食べたことがあります」「飲んだほうがいいです」など、経験やアドバイスの表現にも使われ、「あ！ここにあった」などの発見や「明日ここに来た時、電話してください」を過去形としてまとめてしまうと、なんのこともわからなくなるからです。それで、「見た」「聞いた」「飲んだ」などの「た」は「過去形」でなく「た形」なのです。外国語としての日本語文法から、日本語のもうひとつの姿がちょっとみえてきませんか。

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ

インターネットではもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>



はじめまして。韓国から来たベク ウンジと申します。

今回、インターンシップで熊本にきました。現在、熊本市国際交流会館の2階でインターンをしています。会館は外国人も普通に行き来するところで、沢山の人の出会いがあるところです。普段、色んな人達と出会える機会がありませんので会館での生活はとても楽しいです。これから、約3ヶ月、熊本での生活を楽しみながら、時間があれば色んなところに旅行も行きたいと考えています！
もしいいところがありましたらぜひ教えてください。
短い間ですが宜しくお願いします。



※ベク・ウンジさんは12月下旬まで国際交流会館でインターン生として活動しています。

☆平成27年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催講座の受講料会員割引や、国際交流会館駐車場の割引等の特典があります。

- ①個人会員 一口 2,000 円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000 円/年(一口以上)

平成 27 年 3 月までの会員期間となります。

＜入会のお申し込み・お問い合わせ＞

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！

〔法人会員〕

- ・ London Bridge International School
- ・ 阿蘇ハイランド開発株式会社
- ・ 一般財団法人 熊本市駐車場公社
- ・ 医療法人社団 愛育会 福田病院
- ・ 学校法人君が淵学園 崇城大学
- ・ 学校法人 鎮西学園
- ・ 株式会社 熊本シティエフエム
- ・ 株式会社 コスギ不動産
- ・ 株式会社 まちづくり熊本
- ・ 韓日社会文化フォーラム
- ・ 九州農水株式会社
- ・ 熊本学園大学
- ・ 熊本市地域婦人会連絡協議会
- ・ 国立大学法人 熊本大学
- ・ ホテル日航熊本

継続・新規ご加入 ありがとうございます。

(平成 27 年 7 月 1 日から 9 月 30 日までに加入いただいた皆様)
〔個人〕50 音順 (敬称略)

岩崎 淳一	中溝 若菜	林 めぐみ	松田かおり
植村 米子	名和 鳴海	前田みどり	松村 由紀
下山 敦史	橋村 俊也	真崎 寿芳	宮崎 恵子
鈴木ちず子	早井 来夢	松岡 郁子	守川 照光
竹下 真治	林 真知	松倉 裕二	山崎 直美



- 阿蘇くまもと空港より 車で 45 分
- 熊本交通センターより 徒歩 3 分
- 熊本市電花畑町より 徒歩 3 分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前 9 時～午後 8 時

多文化共生オフィス TEL:096-359-4995 (直通)

休館日 第 2・第 4 月曜日、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center

Service Hours 9:00a.m. - 8:00p.m.

Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)

Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd

★平成 27 年 10 月 1 日より交通センター付近は MICE 建設工事中です。シンボルロードが臨時バスターミナルとなっています。